

すべての臨床医が知っておきたい

IBDの診かた

contents

病態・重症度・患者背景から見極める、
適切な治療選択

◆ 序

第1章 IBDの知っておくべき基礎知識

- 1) IBDとは～どのような疾患なのか? 10
- 2) 歴史～いつ報告されたのか? 11
- 3) 疫学～海外・日本の動向とは? 14
- column ◆ Crohn 先生も驚いている!? 12

第2章 IBDの病因・病態

- 1) IBD発症に関連する因子～遺伝的素因・環境因子・腸内細菌の重要性 18
- 2) 免疫異常がもたらす複雑な病態
～腸管上皮細胞・免疫細胞・サイトカインからIBDをみる 24
- column ◆ FMT 治療はIBDにも有効? 21
- ◆ 細菌の分類と学名についておさらいしよう 22
- ◆ Tfh 細胞とは 34
- ◆ pTreg のなかにも種類がある 39
- ◆ IBD 治療薬によるB 細胞への影響はある? 41

第3章 IBDの診断

- 1) どのような場合にIBDを疑って診断を進めていくか? 48
- 2) 診断基準と鑑別～厚生労働省診断基準 52
- column ◆ IBD の情報を入手しよう 51

第4章 IBDにおける画像検査

- 1) 画像検査をどのように活用するか? 64
- 2) 各検査の特徴 68

第5章 IBDの治療

§ 1 治療の基本

- 1) 治療概念の変遷 82
- 2) UC治療の基本アルゴリズム 85
- 3) CD治療の基本アルゴリズム 88
- 4) 専門施設へ紹介すべきタイミング 90

§ 2 内科治療と副作用

- 1) 5-ASA製剤 92
- 2) ステロイド 99
- 3) チオプリン製剤 (免疫調節薬) 103
- 4) カルシニューリン阻害薬 (免疫抑制薬) 106
- 5) 血球成分除去療法 110
- 6) 抗TNF- α 抗体製剤 (生物学的製剤) 113
- 7) 抗IL-12/23p40抗体製剤 (生物学的製剤) 117
- 8) インテグリン阻害薬 (生物学的製剤) 120
- 9) JAK阻害薬 (低分子化合物) 122
- 10) 抗IL-23p19抗体製剤 (生物学的製剤) 125

§ 3 最新治療

- 1) GLP-2アナログ (テデュクルチド) 129
- 2) MSC療法 133

§ 4 IBDの外科治療

- 1) UCの外科治療 135
- 2) CDの外科治療 139

column	◆ アドヒアランス向上をめざした投与法における課題 96
	◆ 5-ASAのdrug delivery systemに少しふれてみよう 98
	◆ 新規ステロイドが使用可能に！ 102
	◆ TPMT活性ってなに？ 105
	◆ タクロリムスはmade in Japan 109
	◆ CAPで治療の選択肢が広がる！ 112
	◆ 抗TNF- α 抗体製剤をどう選択する？ 115
	◆ S1P受容体モジュレーター 128
	◆ 脂肪組織由来幹細胞は移植できる 134

第6章 IBDの合併症

- 1) 知っておくべき腸管外症状 144
- 2) 関節炎 145
- 3) 感染症 148
- 4) 血栓症 152
- 5) 炎症性発がん 154
- 6) 骨粗鬆症, サルコペニア 158
- 7) 原発性硬化性胆管炎 (PSC) 161
- 8) 皮膚病変 165

column	◆ CMV感染診断は難しい？ 149
	◆ GDH抗原検査とは？ 150
	◆ CD関連直腸肛門管がん 155
	◆ CD関連小腸がん 155
	◆ dysplasiaの診断基準について, 勉強しよう 156

第7章 IBDのspecial situation

1) 高齢IBD患者	172
2) 小児IBD患者の治療・管理	178
3) がん患者のIBD管理	187
4) IBD患者における妊娠	194
5) IBDとSARS-CoV-2感染	201
column ◆ 日本IBD COVID-19患者登録コホート (J-COSMOS) の最終解析	206

Advanced

これからのIBD治療に向けて OmicsパネルのIBD病態解明・治療への応用	210
column ◆ AIを用いた粘膜治癒評価	212
◆ 索引	214